

## オーディオ実験室収載

### STAGE+を楽しむ(244)(HP 収載) —モーツアルトの交響曲と管弦楽曲—

#### 1. 始めに

前報(243)に引き続き、STAGE+のベームのモーツアルトの交響曲と管弦楽曲の演奏の試聴を実施します。

#### 2. 試聴音源

今回は、STAGE+のベームのモーツアルトの交響曲と管弦楽曲の演奏を選びました。

ベームがムジークフェラインザールで振るモーツアルトの交響曲＆管弦楽曲  
コンサート

ウィーン・フィル

収録日: 1974年11月14日

指揮者としてのキャリアをほとんど歌劇場で築きあげ、1981年に87歳で亡くなる直前までオペラから離れることのなかったカール・ベーム。最盛期の1959年～1968年にかけてベルリン・フィルと行ったモーツアルト交響曲全曲録音と、晩年の1976年～1980年にウィーン・フィルと収録した6曲のモーツアルトの後期交響曲集成は巨匠の偉業として今日でも高く評価されています。ここでは円熟期の1974年にウィーン・フィルと交響曲第36番《リンツ》と管弦楽曲を演奏した映像をお届けします。ベームによって引き出されたその明快で艶やかな色彩美がムジークフェラインザールに響く様子をお楽しみください。

演奏:

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

カール・ベーム

曲目:

ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト メヌエット ハ長調 K. 409

ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト

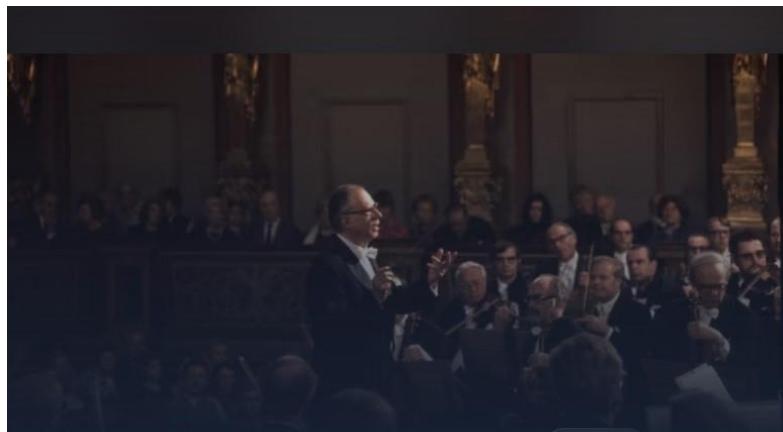
交響曲第36番ハ長調 K. 425 《リン

ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト

セレナード ト長調 K. 525 《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》

ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト

セレナード第6番ニ長調 K. 239 《セレナータ・ノットウルナ》



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結しています。また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。なお、スイッチングハブ→PC 間の OPT ISO BOX は貸し出し中です。

ベームがムジークフェラインザールでウィーン・フィルを指揮してのお馴染みのモーツアルトの交響曲と管弦楽曲で、言わば定番です。

収録はかなり以前であり、スイッチングハブ→PC 間の OPT ISO BOX は貸し出し中なので、音質は秀逸とは言えませんが、ベームの端正な指揮の下、耽美的すぎず、堅苦しさや派手さもなく、オーソドックで伝統的なウィーンのモーツアルトの世界を描いています。



#### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結し、ルーターとスイッチングハブ間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用した結果、オーソドックで伝統的なモーツアルトの世界を覗かせてくれます。

以上